

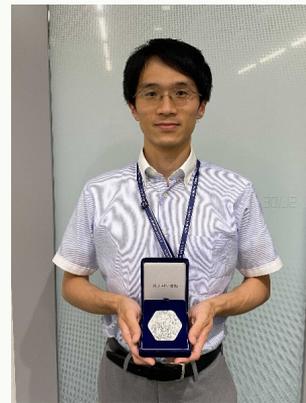
土木会通信 第16号 令和3年10月30日

高島知行先生が社会環境工学科に着任されましたので、研究内容とこれからの抱負をご紹介します。また、令和3年4月には、令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞されました。受賞業績は「高精度な津波被害予測手法の開発に関する研究」です。心よりお慶び申し上げます。

近畿大学工学部社会環境工学科

准教授 高島 知行

令和3年4月より、近畿大学工学部社会環境工学科に赴任しました高島知行と申します。東京にある早稲田大学の修士課程を卒業後、民間会社に4年間勤めたのちに早稲田大学の博士後期課程に入学し、卒業いたしました。博士後期課程卒業から令和3年3月までは、早稲田大学にて研究院講師をしておりました。この度、近畿大学社会環境工学科の一員となれたことを心より嬉しく思っております。専門は海岸工学で、特に津波や高潮、高波といった沿岸災害に関する研究を大学の学部生時代より続けています。私が修士1年生の3月に東日本大震災が発生し、その被害を目の当たりにしたことが、今の道を進んでいくきっかけとなりました。研究では、津波の流体運動を精緻化する数値解析モデルの開発や、津波避難者の行動を再現する津波避難シミュレーションモデルの開発などを行っています。また、水理実験や災害現地調査も実施しています。例えば、2018年にインドネシアで発生したスラウェシ島地震津波とスンダ海峡津波の発生後には現地へ赴き、被災地の観察や来襲した津波高さの計測を行いました。本年度はこれまでの研究成果を認めて頂き、文部科学大臣表彰・若手科学者賞を受賞させて頂きました。日本では、南海トラフ巨大地震に代表されるように、これから甚大な自然災害が発生することが懸念されています。自分にできる研究を積み重ねながら、少しでも将来の災害被害低減に貢献できればと考えています。また、学生への教育活動を通じて、安全・安心なまちづくりに将来貢献できる人材の育成にも力を入れていく所存です。加えて、国内だけでなく海外でも将来活躍できる人になれるよう、学生の成長を後押ししたいと思います。私自身は幸運なことに、ギリシャのアテネ工科大学（修士1年時）、ベトナムのホーチミン工科大学（修士2年時）、カナダのオタワ大学（ポスドク時）という、3つの異なる国で留学した経験を持っています。日本や自分自身を見つめなおす大変よい機会でした。新型コロナウイルス感染症が落ち着いた際には、海外留学に挑戦する学生が増えてほしいと思っています。プライベートでは、1歳の娘の育児に追われる日々です。国内では関東圏以外で暮らすのが初めてなので、家族と一緒に徐々に関西の雰囲気に慣れていきたいと思っています。まだまだ未熟な点が多々ありますが、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



左：スンダ海峡での調査の様子（一番右が私）、右：令和3年度文部科学大臣表彰若手科学者賞副賞のメダル

祝 米田昌弘先生、名誉教授の称号授与

令和3年3月末に近畿大学をご退職されました、米田名誉教授に近畿大学在職中の思い出や近況をご報告いただきました。

私は、17年間、橋梁メーカーで研究開発業務に携わっていましたが、平成9年（1997年）4月1日に、運よく助教授（現在の准教授）として近畿大学に採用されました。民間企業に勤務していたこともあり、若い学生と接するのは非常に楽しく、毎年のゼミ旅行や卒業研究などを通して、学生たちと楽しく充実した日々を過ごすことができました。しかしながら、「光陰矢の如し」のことわざ通り、楽しかった年月もあっという間に過ぎ去り、今年（令和3年）の3月に、24年間勤務した近畿大学を定年退職致しました。近畿大学の教員として在職した期間、土木会の皆様には大変にお世話になり、心から御礼申し上げます。

大学は最先端の研究を行い、かつ、将来の研究者を養成する高等研究機関であることに間違いありません。しかしながら、大学の果たすべき役割は多様化しており、特に日本の私立大学では「社会の第一線で活躍できる実務者を養成する」という役割も大きくなっています。当時の土木工学科（現在の社会環境工学科）でも公務員志望者は多くいましたが、実際に公務員試験に合格する学生はさほど多くありませんでした。要因についてよくよく調べてみると、採用人数が少ないこともありましたが、公務員試験用の対策本がほとんど市販されていないことがわかったのです。そこで、公務員試験の対策本（「土木職公務員試験 専門問題と解答」の必修科目編と選択科目編）を思い切って執筆することにしました。試験に出題される全科目の執筆には大変な労力と時間を要しましたが、これがのちに「米田本」として受験生の間で評判になり、現在も順調に版を重ねることができています。公務員対策本を出版してからは、学科から公務員試験に合格する学生も増えましたので、近畿大学の教員として学生の公務員受験に少しは貢献できたのではと思っています。

一方、公務員対策本を出版してから退職するまでの約12年間は、研究室のほぼ全員が公務員志望者だけの状態となってしまいました。その結果、研究室の全員が公務員試験に最終合格するまで、毎年、ゼミ生のバックアップに追われる忙しい日々を過ごすことになりました。しかしながら、公務員試験に最終合格した学生が喜ぶ姿や保護者からのお礼の言葉を聞くたびに、教員冥利に尽きる思いを秘かに感じていたのも事実です。ちなみに、米田研究室（橋梁工学研究室）の卒業生は195名ですが、このうちの110名が公務員として活躍しています。

定年退職するまで、いよいよ残り一年を切って、退職後の過ごし方について思索していた時に、大学から退職後も学生の公務員指導にあたらなにかとお誘いを頂きました。その結果、教員として退職した後も、近畿大学で再雇用されて、現在はキャリアセンターのキャリアアドバイザーとして勤務しています。主な仕事は、週に2日間出勤して、公務員を志望する学生の受験指導にあたることです。技術職はもちろんのこと、行政職公務員の希望者も非常に多く、SPI3や数的処理に加え、憲法・民法・行政法・経済学などの勉強も行いながら、Zoomで学生面談を行っています。ただし、文系学生と面談して、倍率の高い行政職公務員試験に合格するには、試験勉強のスタートが少し遅いのではと思うこともあります。これに対して、土木系学科である社会環境工学科では、土木職公務員の採用人数も多く、情報を正しく把握してしっかり勉強すれば合格できる可能性は非常に高いと言えます。それゆえ、公務員を志望する学生は、早い時期に、就職委員やゼミの先生と相談して進路を決めていただければと思います。もちろん、ゼミ配属前から情報収集することは決して悪いことではありませんので、公務員試験に興味のある学生は、キャリアセンターを訪ねて来ていただければ、私の方でも対応することは可能です。社会環境工学科の元教員としては、社会環境工学科の学生全員が、第一志望の採用試験に合格して、胸を張って堂々と近畿大学を卒業してほしいと願っています。

コロナ禍で、勉学だけでなく交友関係も含め、多くの方が不自由を感じていると思います。私も研究室の教え子たちと、毎年、OB・OG会を開催してきましたのですが、ここ2年間はコロナ禍で開催することが出来ていません。時間が経てば間違いなくコロナ禍も収まるはずです。研究室の教え子たちと会える日も近いと信じて、もう少しだけキャリアセンターで学生指導にあたる所存です。どうぞよろしくお願ひ致します。



コロナ禍前に開催した研究室のOB・OG会（令和元年7月6日）

土木業界についての雑感

国土交通省 近畿地方整備局 統括防災官

粟津 誠一 (昭和60年卒)

この度は、土木会通信に寄稿させていただき感謝申し上げます。

私は、昭和60年卒業で三星ゼミ(交通工学)の出身です。卒業後は、建設省(現、国土交通省)に入省し、主に道路関係の仕事をしてきました。現在は、南海トラフ地震の対応計画の策定や災害で被災した市町村の支援といった、防災に関わる仕事をしています。

私事ですが、ご縁があって昨年度と今年度、社会環境工学科1年の「社会環境工学概論」の1コマではありますが非常勤講師をさせていただきました。その時に少しお話をした我々土木にたずさわるものの社会的地位について、本稿で少し書かせて頂ければと思います。結論から先にいいますと、我々土木従事者は「社会にめっちゃ役に立っているのに、多くの国民の皆さんはそれを認知していない」ということです。

1970年代の高度経済成長期の終盤以降では、「男は黙ってなんちゃらビール」や「不器用ですから」といったフレーズがもてはやされ、我々土木業界も縁の下に力持ちにロマンを感じていた時代であったと思います。それが一因かどうかはともかく、土木業界は今日に至るまで3K(きつい、汚い、危険)が強調され、土木業会への就業者は減少を続け、年間賃金は製造業をも下回りつづけてきました。

一方、建設業が日本の経済に与える影響とはどれぐらいのものでしょうか。我が国の国内総支出は560兆円(2019)で、その内75%が消費、残りが固定資本形成(いわゆる設備や建設投資)であり、その内建設投資は国内総支出の約10%を占めています。それは、言い換えれば、我々が日々携わっている土木建築の仕事は、日本経済の1割に影響を及ぼしているといえると思います。

また、建設投資(2019)は、民間が40兆円で公共が23兆円。約4割が土木で6割が建築。また、土木についてみれば、公共は約8割(17兆円)で、民間は約2割(5兆円)です。参考に、私は公共事業を行っている公務員の一員ですので、日本の経済の約3%(17兆円÷560兆円)について影響を及ぼす仕事に携わっていることとなります。

3%といえば少ないようにもみえますが、国内総支出の75%を占める消費を下支えしているのが道路や港湾、上下水道といったインフラの役割であり、防災面での安全安心の社会を構築することも我々土木技術者の役割でありますので、決して少ない数字ではないと思います。

大災害が発生すると、自衛隊や消防、警察といった行政機関の活躍が再三報道されます。しかし、実際には、それらの機関が現場に到着するために、報道されることのない地元の建設会社の人々が真っ先にかけて、家庭のことを二の次にして道路啓開(通れるようにすること)を行っているのです。

国民の皆さんに、土木業界のことをもっと知ってもらうことがいかに大切か、を感じさせられます。そのため、我々は土木業界の社会的地位向上に向け、情報発信を積極的に進める必要があると感じています。我々土木技術者は、とても大事な仕事をし、さらに、夢のある仕事もしています。

折しも、土木学会の谷口会長が「ビックピクチャー」を描くことを提唱されています。関西では、今後30年で、大阪・関西万博をはじめとして、新名神高速全線開通、うめきた2期開発や森ノ宮、新大阪の開発、なにわ筋線開業、大阪湾岸道路西伸部や淀川左岸線延伸部、紀勢線の全線の開通、北陸新幹線やリニア中央新幹

線の開業などのビックプロジェクトが目白押しです。それらインフラが完成すると、スーパーメガリージョン時代の到来と相まって、関西圏はどのように成長し、どのように発展するのか。それらの計画や構想、実際の建設を担うのは、我々土木技術者ではないでしょうか。

「LOOK WEST！」これからは、西日本、いえ東アジアのゲートウェイとして関西をもり立てていくことも、我々土木技術者の仕事です。

土木とは築土構木、土や木などを使って構造物を作ることが仕事ではなく、構造物を作ることによって文化を創ることが仕事なのです。

産学官が共に手を携えてより一層、土木業界をもり立てていきましょう。

故 佐野正典先生を偲ぶ

阪神高速技術株式会社

久利 良夫 (平成2年卒)

今年の5月24日午前、佐野正典先生の訃報を頂きました。コロナ渦で先生とお目にかかる機会もめっきり減っていたところでの突然のショッキングな連絡でした。ご葬儀は、コロナ渦の緊急事態宣言中のこともあり、ご家族のみで執り行われたとのでした。

門下生一同にはたいへんなショックなことでありました。佐野先生はご存じのとおり、ご専門は道路舗装分野で、舗装の学識者が日本全国で非常に少ない中で貴重な先生であられ、大学在職中のみならず退職後も、全国の学会、委員会、研究会などで、ご活躍されていましたことから、舗装業界にも大きな驚きが走りました。

私の所には、門下生の諸先輩方や舗装業界の方々から、どうなっているんだとの連絡が次々と入ってきましたが、その日は、情報がなかなか得られずにいました。

コロナ渦も相まって、ご家族へのご連絡も憚る状況ではありましたが、佐野先生と定期的に集まっていた先輩と私とで、お悔やみお電話をさせて頂き、状況が判ってきました。現在もご存じない方もおられると思いますので、簡単に延べさせて頂きます。

佐野先生は、ご健康には気をかけられる方でしたので、毎年人間ドックにて検査を受けられていました。その検査の結果、今年3月上旬にすい臓がんが発見され、抗がん剤治療をされていました。2回目以降の治療は、ご自分で最寄り駅まで車を運転され通院されていたとのこと。4月上旬には、お好きなゴルフも2回ほど行かれ、帰宅されたときは少し疲れているようでしたが、ゴルフに行く朝より元気そうだったと、ご家族も言われていました。また、そのような中でも舗装業界の方々からの相談事にも対応され、まだまだ現役でご活躍されていたとのこと。

しかし、4月下旬の治療の時に、肺炎を起こされており、4月末から入院されていました。入院中は一旦お元気なられ、ご家族と冗談を言ったり、好きなものを食べて過ごされたようですが、5月16日に容態が急変され、午後10時44分、ご逝去されました。抗がん剤治療の副作用による薬剤性間質肺炎によるものとのことでした。

私が、佐野先生に初めてお目にかかったのは、大学入学時の新入生ガイダンスでの教員紹介の時でした。先生の授業では、測量学、測量実習を受け、当時は実習では夏休みの1週間程度、炎天下の大学構内を測量する課題があり、たいへんな授業だと思ったものです。(後に、先生より、昔はもっと長期間に渡った測量実習があったことを伺いました。)次に、道路工学の授業では、日頃、当たり前のように歩き、車で走っている道路舗装を学び、土木工学をより身近に感じると同時に、道路舗装に興味を持ち、これをきっかけに佐野先生の道路工学研究室に配属となりました。研究室では、当時は、アスファルト舗装や舗装にリサイクル材を用いる研究が主でした。いつも見ている舗装に使われているアスファルトそのものを見ることや、道路舗装に今後様々なリサイクル材が使われていくことに新鮮味を感じたものです。結局、私は大学院修士課程、就職後の社会人での大学院博士課程と述べ9年間にわたり、また、その後も学会や委員会でご一緒するなど、研究のみではなく、公私ともに様々な面で先生よりご教示頂きました。

道路工学研究室は、1967年(昭和42年)アスファルト実験室として誕生(写真-1)し、1978年(昭和53年)に道路工学研究室となりました。1985年(昭和60年)は大学本部から少し離れた八尾市に所在する実験棟に移り(写真-2)、私が研究室に居た頃には、実験棟の研究室と大学本部とを授業の度に自転車にて行き来し、研究室への帰り際にメロンパンを買ってくる先生の姿を思い起こします。

ご退職までの42年間に多くの学生を世に送り出されましたが、退職記念祝賀会をはじめ、数回開催した研究室全体での同窓会では、40年来の卒業生に毎回百数十名出席頂き、佐野先生の人望の篤さを感じました。また、日頃、先生からは「研究は地道に行っていれば必ず誰かが見ている」と言われていたことを思い出します。研究室創立33周年に制作した記念誌を見返しますと、「学問とは知らざるを学び、疑わしきことを問う」や「人とのつながりを大切に」「荏苒日を送るな」など、門下生が心に残っている言葉が次々とみられ、先生の研究姿勢やお人柄が表れていると感じます。

一方、佐野先生と学外の学会や委員会、産官学の共同研究などで、ご一緒された業界の方々からは、「お世話になった」「いつも優しく声をかけて頂いた」のような言葉しか返ってきません。研究に関しても、アイデアマンの先生はユニークな研究も数多く手がけられ業界での反響も大きなものがありました。中でも、2015年(平成27年)には、使用済み碍子のリサイクル技術を確立され一社)産業環境管理協会「平成27年度資源循環技術・システム表彰」経済産業省産業技術環境局長賞を受賞されております。

このように、学生、業界にも貴重な存在であった先生がご逝去なされたことは、誠に残念でなりません。私も佐野先生より学位を頂いた1人として、先生の何十分の一かもしれませんが、舗装技術者の育成や業界への貢献が少しでもできればと思っています。

最後に、同じく佐野先生より学位を頂いた藤森章記君と、9月のお彼岸に先生のお墓参りをさせて頂きました。お墓の横の墓誌には、研究室創立33周年記念誌の表紙に掲載されている先生の手書かれた「道」の文字が大きく刻まれていました。ここにも先生のこだわりを感じずにはおられませんでした。

改めて佐野先生に感謝すると共に、ご冥福をお祈り申し上げます。



写真-1 誕生当時のアスファルト研究室



写真-2 実験棟に移ってからの道路工学研修室

道

墓誌に刻まれている「道」

土木会活動案内

役員会書面議決

令和3年度役員会は新型コロナの感染予防のため、昨年度に引き続き、書面による議決とさせていただきます。役員の皆様にはご不便をお掛けしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

キャリア支援講演会開催案内

令和3年11月6日(土) 午後1時～午後3時にZoomによるオンラインキャリア支援講演会を実施します。約15の団体・企業からの参加を予定しており、卒業生に講演頂き、在学生へのキャリア支援をお願いしています。多数の学生参加をお待ちしています。



交流会開催中止

例年、キャリア支援講演会後に開催しておりました『交流会』は、新型コロナウイルスへの感染予防のため、中止とさせていただきます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

【編集後記】新型コロナウイルスへの感染予防のため、昨年度に引き続き、交流会の開催は残念ながら中止せざるを得なくなりました。次年度には、また多くの卒業生にお集まりいただき、交流を深めていただけるようご参加をお願い致します。

会員各位におかれましては、名簿登録情報に変更がありましたら、メールにてご連絡くださいますようお願い申し上げます。

また、卒業生からの近況報告など「卒業生だより」に掲載する原稿を募集しています。

近畿大学土木会事務局

〒581-0811 八尾市新家町 8-23-1 東山教授室内

TEL06-4307-3553

E-mail: dobokai@civileng.kindai.ac.jp